

バスケットボールプラザ

Basketball Plaza

No:66



2015 年 5 月

NPO 法人 日本バスケットボール振興会

目 次

○ 理事会と定期総会を開催	2
○ JAPAN 2024 TASKFORCE	14
その後の動きとバスケットボール界	
○ ミニ、中学生クリニックに協力	18
目黒区立中央体育館主催クリニックへ講師派遣	
○ 全国シニア交歓大会 in YOYOGI 大会要項	20
○ 人物抄	
野口昌三さん	22
○ 会員だより	
FIMBA WORLD LEAGUE ZADAR 2015 に参加して	24
バスケットボール湘南だより (その9)	28
38年間の高校教員生活を終えて (その3)	31
○ NBLはプレーオフへ	33
○ WJBLシーズン終了	35
JX-ENEOS 7連覇成る	
○ 事務局だより	37
○ プラザ こぼればなし	38

JAPAN 2024 TASKFORCE

その後の動きとバスケットボール界

[編集部]

J B AがF I B Aから無期限の国際大会出場禁止という制裁を受け、F I B A指導のもとに発足した JAPAN 2024 TASKFORCE については前65号でお知らせしたとおりである。結果的にJ B Aはアジア予選大会を経て獲得したU-19世界選手権大会出場を始め、日韓学生交流大会から日韓ママさん交歓試合にいたるまであらゆる国際大会（国際試合）への参加が不可能となり、日本バスケットボール界は国際的に鎖国状態におかれている。

今回は、発足した JAPAN 2024 TASKFORCE (以後 TASKFORCE) のその後の動きと、それに対応した現在のリーグ参加チームの動向、これらに係る J B Aの動きなどを追ってみる。

TASKFORCE は「トップリーグ」、「ガバナンス」、「バスケットボールディベロップメント」の各ワーキンググループに分かれて精力的に作業を推進し、3月4日、3月24日、4月28日、5月13日の4回の会議を経てそれぞれの分野で一定の結論を導き出した。

特にトップリーグについては素早い作業ぶりで、4月1日付けで一般社団法人ジャパン・プロフェッショナル・バスケットボールリーグ（以下 J P B L）を立ち上げ、理事長に川淵三郎氏、理事に境田正樹氏が就任、更に4月21日に社員総会を開催して、理事に大河正明氏、監事に岸郁子氏を追加選任した。

J P B Lは2016シーズンから新たなプロリーグを発足するための設立セレモニーが開催された4月3日から参加チームを募集開始、日時の経過とともに申込チームが増えていった。4月28日の会議ではN B L、N B D L、b jリーグの47チーム中、46チームが参加申し込みを終えており、残るN B D Lの1チーム東京海上日動ビッグブルーも締め切りの4月末までに入会申込み・審査書類提出を済ませ、全47チームが参加することとなった。

これらのチームは4月末までに審査書類を提出し、5月には新リーグ入会チーム、7月には入会チームに対する1部～3部までの所属が決定され、8月上旬に新体制が発表される予定である。しかしながら和歌山トライアンズのように経営上の資金事情から2015シーズンにさえ参加できないチームもあり、各チームが安易に申込だけ行った感はぬぐえないし、川淵氏が強調している1部リーグチームでの常時5000人収容アリーナの確保ができるか否かも課題となろう。

一方J B Aガバナンスに関する改革では、昨年12月にJ B A全理事が辞任を表明していたが、TASKFORCEは3月に新たな理事構成として、理事5名、事務総長1名という提案を行った。更に全国評議員についても刷新を求め、4月28日に開催された臨時評議員会において全評議員の辞任が求められこれを可決した。辞任した評議員の後任については選考委員会で選出基準などを決定し、各都道府県から選出された新評議員による臨時評議員会が5月13日に開催され、J B A理事、監事が正式に決定された。新理事会において、

下記のように新会長以下の役職者が選出された。

また、TASKFORCE の境田氏はスイス・ジュネーブの F I B A 本部を訪問、現在の状況説明とディスカスを行っているとともに、補佐チェアマンである F I B A のヴァイス氏は、6 月に開催される F I B A 総会において J B A に対する国際試合出場禁止の制裁が解除されるだろうとの見通しを発言、日本の各代表チームは国際大会へ向けて準備を進めるよう促している。

J B A 新理事会 （年齢は 4 / 2 8 現在）

氏名・役職	よみがな	年齢	備考 経歴など
川淵三郎 会長・理事	かわぶち さぶろう	7 8	日本サッカー協会最高顧問 首都大学東京理事長 TASKFORCE チェアマン J P B L チェアマン（理事長）
小野清子 副会長・理事	おの きよこ	7 9	元参議院議員 日本オリンピック委員会名誉委員
三屋裕子 副会長・理事	みつや ゆうこ	5 6	日本体育協会日本スポーツ少年団副本部長 日本バレーボール協会評議員 (株)サイファ代表取締役
大河正明 専務理事 事務総長	おおかわ まさあき	5 6	日本プロサッカーリーグ常務理事 J P B L 理事
山本一郎 理事	やまもと いちろう	5 8	J X ホールディング(株)執行役員総務部長
間野義之 理事	まの よしゆき	5 1	早稲田大学スポーツ科学学術院教授 日本体育協会指導者育成専門部会委員

J B A 新監事 （年齢は 4 / 2 8 現在）

氏 名	よみがな	年齢	備考 経歴など
境田正樹	さかいだ まさき	5 1	弁護士 TASKFORCE メンバー J P B L 理事
須永功	すなが いさお	4 7	税理士 日本スポーツ振興センター助成事業評価委員 日本サッカー協会財務委員

以上のように今年 1 月に発足した TASKFORCE は、ほぼ予定された日程通りに作業を進め、統一された新たなトップリーグが 2016 シーズンから発足できる見通しとなった。

また、J B A の改革についても 5 月 13 日から上記新体制が発足し、F I B A の意向に沿う形で再スタートとなった。

残されたバスケットボールの発展強化体制についてはこれからとなろうが、かねてより F I B A から指摘された制裁理由の大きな項目はクリアされたといっていいただろう。従っ

て、6月18日～20日に開催されるFIBA総会において、JBAの国際大会出場禁止という制裁も解除される見通しを川淵会長が表明した。先の報道によれば、川淵会長が自らFIBA総会に出席してこの成果を説明するとともに制裁の解除を求めるとのことである。

川淵三郎氏は会長就任にあたりご挨拶として以下のように語っている。



夢を持ち、高い理想を掲げて、いまこそ一つに

日本のバスケットボールファミリーの皆さま、こんにちは。この度、公益財団法人日本バスケットボール協会(JBA)の会長に就任いたしました川淵三郎です。

ご存じのとおり、当協会は昨年11月に国際バスケットボール連盟(FIBA)から国際資格停止の処分を受け、いまなお、その処分は解かれていません。日本のバスケットボール界はいま、国際的に見て非常に危機的な状況にあると言えます。その原因はひとえに、長年にわたるJBAのガバナンスに問題があったと言わざるを得ません。

一方で、この困難な状況は、それをきっかけに日本のバスケットボール界が生まれ変わり、大きな飛躍につなげる絶好の機会であることもまた事実です。将来、この一連の出来事を振り返った際、あの時がJBAのターニングポイントであったと言えるよう、ベストを尽くします。

いま最も必要なのは、皆さまとともに大きな夢を持ち、高い理想を掲げ、目標の達成に向けて日本のバスケットボールファミリーが一致団結することだと思います。皆さま一人ひとりの情熱を結集させることができれば、必ずや大きなパワーが生まれ、一般の人たちはもちろんマスメディアから見ても魅力あふれるバスケットボール界に変身することは可能です。

私はFIBAタスクフォース(JAPAN 2024 TASKFORCE)のチェアマンを務めた経緯から、縁あって今回JBAの会長を拝命しました。短い任期であり、またバスケットボールの経験ありませんが、スポーツを愛する一人の人間として、これまでこの改革に全力で取り組んできましたし、今後も皆さまと力を合わせて努力していく覚悟です。

「プレイヤーズ・ファースト」の精神に則り、誠心誠意、皆さまとともに歩んでいく所存ですので、ぜひ力をお貸しください。

今後のバスケットボール界の発展に、より一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2016 シーズンから発足する J P B L には、N B L から 1 3 チーム、N B D L から 1 0 チーム、b j リーグから 2 4 チームが参加し全 4 7 チームがプロリーグとしてスタートする予定だが、プロである以上、その経営が成り立たなければリーグは衰退してしまう。

バスケットボールのマーケティングについては TASKFORCE メンバーである電通の中村氏（執行役員）が、これまでのスポンサーを含めて全面的に引き受けると約束している。

これまで J B A はバスケットボールという競技に対してアマチュア的に運営されてきたと言っても過言ではない。この辺りがバスケットボールの完全プロ化を阻害してきたのかも知れないが、J P B L として、大都市、地方を含めてアリーナの問題と観客動員問題の解決に向け積極的な対策が必要となる。

少々強引ともいえる川淵氏が中心となって、短期間に日本バスケットボール界の改革を進めてきたが、細部についてはこれからの段階であり、それらを如何に具体化していくかが今後の課題として残る。

ちなみに川淵氏が個人的な意見と前提をおいて話した資金的なことは、J P B L の入会金は 2 0 0 0 万円程度、年会費は 1 0 0 0 万円程度との方向性が示された。アリーナについても 5 0 0 0 人以上収容できる施設を単独で持っているチームはないが、まずは現存する 4 0 0 0 人規模のアリーナを利用できるように関係各位の協力をお願いしたい。

当然のことながら、各チームのホームタウンにある自治体などが運営するアリーナを固定的に使用できる対応策をとると同時に、アリーナを満杯にするよう観客確保に向けて各チームは勿論、各リーグ組織も最大限の努力が必要である。現に千葉ジェッツが早くも船橋市と連携して、6 0 0 0 人収容の船橋アリーナを専用ホームアリーナとして確保した好例もある。

一方、J B A にはこれらの諸課題だけでなく、アマチュアの大会や組織も多く存在している。新理事の方々はこれらのアマチュア的な課題を如何に運営するのもこれから検討して欲しい。

U - 1 9 世界選手権への出場はならなかったが、これから日本のバスケットボール界を背負っていくであろう高校生たちのバスケットボールに対する人気はもの凄いもので、全国大会での観客動員は盛んであり苦勞することがない。しかし、この人気を J P B L に如何に繋ぐことができるか、他競技をも参考にして実現を図ってほしい。

遅きに失した感は否めないがサッカー協会の力や知恵をも借りて、全国の自治体を巻き込み、これからのバスケットボール界の発展を期待したい。

人物抄

野口 昌三 さん



野口さんは、昭和5年(1930)佐賀県のご出身で85歳、東京都立川市にお住まいでお元気である。旧制佐賀中学校へ進まれたころ戦争が激しくなり、3年生の時には学徒動員されて厳しい軍事訓練を受けられたそうである。

終戦時、佐賀中学校の体育館は米軍に接收され、そこではアメリカ兵がバスケットボールを楽しんでいた。たまたまそれを見た野口さんはバスケットボールに興味を持ち、その中に飛び込んで遊んでもらったのがご自分のバスケットボールの始まりだったという。

やがて教育制度が変わり佐賀中学校は佐賀第一高校となり野口さんは3年生として編入、バスケットボールも続けられその年に開催された第3回国体（福岡開催）高校の部で準優勝された。

昭和25年(1950)東京教育大学（現筑波大学）体育学部へ入学され、4年生の折には主将として大活躍し、関東大学選手権、関東大学リーグ戦、インカレの3冠を制し、その年度の全日本選手権大会では大学チームを準優勝に導いた。

大学在学中に名将、故吉井四郎さんに出会い、そのコーチングに感銘し卒業後は教員の路へと思っておられたらしいが、バスケットボールの縁あって昭和29年(1954)関西の田邊製薬へ入社され、ここでも近畿総合選手権で優勝、大阪代表として国体一般の部で2年連続優勝に貢献された。

更には日本代表選手として昭和29年(1954)に開催されたマニラ・アジア大会に、当時日本鋼管にいた糸山選手(故人)らとともに出場して銅メダルを獲得された名選手でもある。

田邊製薬(現田邊三菱製薬㈱)へ入社されてから約3年後、会社として東京市場を開拓すべく東京支店へ移られ田邊製薬東京チームとして関東実業団連盟に加入してリーグ戦へ出場したが、この頃チームは多分11部だったと記憶する。

東京へ移られてから野口さんのバスケットボール界への貢献が始まる。大学の先輩である故鈴木正三先生が学習院におられ東京都協会の役員をされていたこともあって、都協会の役員を引き受けられた。更に、昭和49年(1974)から昭和63年(1988)までの長期間、関東実業団連盟の理事・監事を務められ、昭和53年(1978)から昭和57年(1982)まで日本実業団連盟の理事も引き受けられた。

また東京教育大学OBの立場で関東大学連盟や日本学生連盟の役員についても歴任され、出身校は異なっても同じバスケットボールの仲間なのだからと、常に人の和を念頭に置かれ「もめごとは嫌い」と云っていつも関係者をまとめる立場で活躍されていた。



中央眼鏡の選手が野口さん

昭和51年(1976)、新旧学生連盟が合併して順調に運営されてきた関東学生連盟から10校が離脱、東京10大学連盟を組織して別の学生リーグを始めたときは温和な野口さんも収まらないものがあったようだ。かつて関東の大学に新旧2つのリーグが存在したことが世間から批判を浴び、昭和42年(1967)にOBたちの努力によってやっとひとつにまとまってからさほど年数が経ってないとき、いわば関東学生連盟が分裂したような形態となって、また世間から批判を浴びることになってしまったからである。

それから3年後、学生界にとって相応しくない状況を解消すべく、関東学生連盟に残っていた東京教育大OBの野口さんは、日本体育大OBの稲垣さんや故浮田さん、10大学の東京大OBの宮崎さんなどと話し合いを始め、昭和57年(1982)に関東大学連盟の一本化にこぎつけた。紆余曲折はあったもののひとつにまとまった関東学生連盟の組織は、現在の関東大学連盟として発展しその歴史をきざんでいるのである。

その後、田邊製菓東京支店は事業とともに年々発展し、野口さんは総務室長として広く業務をこなされる立場となられた。この頃、会社社内報の事業場長インタビュー欄にも登場され、趣味は多彩だがバスケットボールは本職と答えられ、ジョギングは20数年続けていると健康ぶりを話されるとともに、何事にも誠心誠意をもって対応し報恩を忘れないことを強調しておられる。

昭和50年(1975)代、日本実業団連盟が東京で全国役員会議を開催したとき、東京世田谷にあった田邊製菓東京寮を宿泊先として地方役員に提供する便宜を図られ、実業団連盟の地方役員と本部役員とのコミュニケーションが一気に強まったことがある。

野口さんは夕刻の食事時には自ら厨房へ入られて、夕食準備の手伝いから皿洗いまでこなされ、当時の管理人夫人から恐縮された一幕もあったとのこと。またこのとき野口さんの発案で、各地方役員が名物的な地元食材を持ち寄ることになり、会議後「全国うまいもの会」と称して大いに盛り上がり、以後の日本実業団連盟役員の結束に繋がっている。

どこの大学でもバスケットボール部OB会が組織されていると思われるが、野口さんも東京教育大学OB会長を8年間の永きにわたって続けられ、母校バスケットボール部の発展に寄与されてきた。

その甲斐あってか筑波大学(旧東京教育大学)は、昨年のインカレで実に61年ぶりの優勝を飾ったのである。取材中に野口さんは「61年ぶりというのはいけくないですね」と笑っておられたが、61年前の優勝は野口さんが東京教育大主将として活躍し、インカレを制し全日本選手権で準優勝した頃の出来事であったからかも知れない。

現在でも筑波大学の試合を観戦しに行くことは勿論のこと、同大バスケットボール部の歴史編纂にも関わっているという野口さんは、ご自分でもおっしゃっているようにバスケットボールの虫である。

そんな野口さんも、このたびJBAのFIBA処分問題について話を向けると「本当に情けないこと」とだけ答えられてそれ以上は口を開かず、最近のバスケットボール界を嘆いておられるかのようであった。

決して派手な存在ではなかったが、人の和を重んじてバスケットボール界に貢献されてきた野口さん、最近では健康のためと以前好きだったアルコールも断って穏やかに話をされるが、その中身はいつもバスケットボール界の発展を願ってのことである。



FIMBA WORLD LEAGUE ZADAR 2015

に参加して

山上 久夫

4月11日から4月16日までの6日間、クロアチアのザダル市でFIMBA（後述）の主催するバスケットボールの国際競技大会に参加して来ましたのでご報告させていただきます。

移動距離片道1万キロ以上、時間も約20時間をかけて参加をしたのですが、参加して強く且つ深く感じたことを先ず記させていただきます。

一言で申し上げると、「40年も前からこんなに素晴らしい大会が開かれていたことに驚き、参加できて良かったし、素晴らしい経験をさせていただきました。機会があれば次も参加をしたい」と言うことに尽きます。私は国内で色々なシニア大会を経験してきましたが、期間が1週間と長かったこともあり、ここまでの感動を経験したことはありません。

そのような感動の源は、開催都市、体育館、ゲーム進行、滞在ホテル等大会の運営が組織化され整然としていたこと、そして何よりも大会関係者、選手達、参加者全員の友好的でオープンなマインドが実に素晴らしかったことと言えます。

今大会は、アドリア海沿いの都市で3000年以上の歴史を有するザダル市（人口7万人程の観光都市）で開催され、ユネスコの世界遺産であるザダル旧市街を各国チームがパレードし、古代ローマフォーラムの遺跡で行われた感動的な開会式で始まりました。正に市を挙げた歓迎ムードで雰囲気は最高でした。

その夜同じく旧市街の野外で開催された歓迎パーティーも素晴らしいものでした。



バスケットボールの盛んなクロアチアの中でも特にバスケットの町として知られるザダルで、8千人以上を収容できるメインアリーナ（他にサブコート4面）を備えた素晴らしい体育館でゲームが行われました。

現代的な設備と施設が整った海沿いの大きなリゾートホテルに各国チームが1週間滞在し、美味しい料理とビール、ワイン等をみんなで堪能したことも素晴らしかったです。

参加チームと大会関係者全員が原則同じホテルに滞在する形式で、朝昼晩の食事、開会式や歓迎パーティー、ガラディナーパーティー等公式行事で、その他毎晩のように開かれた非公式なパーティーで、ゲーム会場までのシャトルバスの中で、勿論ゲームでの対

戦や応援を通じて、自然と選手達同士がお互い顔見知りとなって片言の言葉を交わし、グラスを傾け、ダンスに興じ長年バスケットボールを続けて来た者同士として親しくなれたことです。

初参加の私達に対しても、フロリダでの大会には参加しないのか、来年のセルビア大会には是非一緒に参加しよう、などのお誘いを数多く受け、以前からの参加者達と気兼ねなくうちとけることが出来ました。

主催の FIMBA がどのような組織なのかも良く知らず、国際大会への参加も初めてで、期待よりも不安が大きいままに現地入りしたのですが、ザグレブ空港（クロアチアの首都）到着時に今回の大会参加のきっかけとなるお誘いを昨年夏に頂いたジェリコ氏（大会の顧問的な存在でザグレブ在住のバスケットボールのプロコーチで元男子日本代表チームの HC）ご自身にお出迎え頂き、困ったことがあれば何でも言って下さいとの申し出を頂きました。



ザグレブ空港にて中央がジェリコ氏

空港からバスで約 3 時間かけて（途中ユネスコの世界自然遺産であるプリトヴィツェ観光を済ませ）大会開催地であるザダル市の滞在ホテルへ到着、そこでも参加に際して何かとご配慮を頂いた Tonci 氏が大会実行委員長としてお忙しい中にも拘わらず自らが出迎えて下さり、歓迎ムード一色の中でホテルに落ち着き翌日からの試合に備えました。

この大会は FIMBA（Federation of International Maxibasketball Association）が主催するバスケットボール競技大会で、年齢別にカテゴライズされたチーム間でその順位を競う大会です。

今回の大会では男子は 35 歳以上 5 チーム、45 歳以上 8 チーム、50 歳以上 9 チーム、55 歳以上 10 チームのカテゴリーに分かれ合計 32 チームが参加、女子は 30 歳以上 4 チーム、35 歳以上 3 チーム、45 歳以上 9 チームのカテゴリーで 16 チームが参加し、参加国数は男子 12 ヶ国、女子 11 ヶ国となりました。また、男女共に参加した国を勘案すると 17 ヶ国から参加し、加えて男子、女子各々に FIMBA WORLD TEAM が生まれ、そのチームに参加した選手の国を合わせると参加チーム国とは別に 4 ヶ国からの選手が参加していました。

競技の方式は前半 4 日間でグループリークを、後半 2 日間で順位決定戦を戦い、優勝、2 位、3 位、4 位までを表彰するという形式で行われましたが、6 日間で各チームはグループリーク、順位決定戦を合わせて 4 試合～5 試合を行いました。

日本からは、45 歳以上のカテゴリーに島根からの男女各 1 チームと、男子 55 歳以上に私達のチームの 3 チームが参加しました。FIMBA が主催する大会へは日本からのみならず、アジアからの初めての参加となりました。

日本チームの成績は3チーム合わせて14試合を戦い、女子の対ブラジル戦での記念すべき1勝以外は残念ながら全敗に終わりました。その結果は女子45歳以上の部7位（優勝ドイツ）、男子45歳以上の部8位（優勝イタリア）、男子55歳以上の部10位（優勝ブラジル）でした。

大会の概要は上記の通りですが、次に55歳以上の部に参加した私達のチームとその戦いについて報告したいと思います。

私達のチーム「Samurai Senior Ballers」は関東から7名（神奈川4、東京1、埼玉2）関西2名、沖縄2名の有志が集まった合計11名です。年齢は50代が1人であとは60代、全体平均で63歳を上回り、サイズのにも最高でも190cmに届く者がいないという状況で、55歳の部への参加は当初からかなりしんどいものと想定していました。

第1戦は現地到着日翌日の4月11日朝9時からの第1試合、対アルゼンチン戦、結果は30対47で敗戦。第2戦は4月12日、対クロアチア（ザグレブ）戦、結果は37対77で敗戦。第3戦は4月15日、対オーストリア戦、結果は37対79で敗戦。第4戦は4月16日、対チリ戦、結果は38対64で敗戦と言う結果となりました。



私達が対戦した4チームは同カテゴリーで優勝したブラジルチームのように楽々と3ポイントシュートを決めるというような戦い方ではなく、2m前後の者が複数名いてサイズで大きく負けていたことは事実ですが、だからと言ってペイント内でフィジカルを全面に押し出してゴリゴリとやられっぱなしでどうしようもなかったということでもありませんでした。寧ろそれ以上に個々のプレーヤーの動き方（ポジショ

ニングやスピード）やボールの動かし方への対応で我々より劣る点が多々あったと考えています。リバウンドも含めてディフェンス面を改善することでもう少し競ったゲームをすることができたのではないかと、個人的には感じています。国際大会初参加で外国勢との対戦も初めて、という中で大変良い勉強になったことは事実であり、次に参加する機会があれば少しでも前進した姿を示したいと念じています。

ゲームの合い間を縫ってユネスコの世界遺産指定の都市であるスプリット、トロギールを訪ねたことや、実行委員長の Tonci 氏が駐日クロアチア大使の古くからの友人であったご縁から、大使の友人でザダル近郊のワイナリーオーナーから日本の3チームをご招待頂き美味しいワインと料理をご馳走になったことも大会参加の良き思い出となりました。

最後に、大会関係者、参加各国の選手達、ジェリコ氏、通訳のケンさん、日本3チームの皆様方、大変お世話になりました。おかげ様で大きな怪我やトラブルも無く無事に初の国際大会参加を終えることが出来ました。ありがとうございました。

[Y校レディーバードシニアメンバー]

FIMBA とは:

Maxibasketball の活動を創設し、推進し、組織化し、発展させ、運営し、管理する組織。最も大きな大会は **FIMBA WORLD MAXIBASKETBALL CHAMPIONSHIP** で、この大会は2年毎に世界の都市から選ばれたところで開催される。今年の8月にフロリダのオーランドで開催（約200チームが参加）が予定されている。

Maxibasketball とは:

ラテン語で最高を意味する接頭語である **Maxi** と **Basketball** の合成語で、バスケの入り口世代のミニバスとは反対に現役プレーヤーとしてバリバリのプレーを終えた後の世代が生涯にわたってバスケを続けて行きたいと願う人々が集ってバスケを行う活動を意味する。今回の大会でも、かつて自国の代表チームで活躍した選手、**NBA** や各地のプロリーグの経験を有する選手達なども参加していた。

Maxibasketball は、1969年にアルゼンチンのブエノスアイレスで始められた、**The ARGENTINEAN BASKETBALL VETERANS UNION** の創設がその始まり。その後数年でプレーヤーの年齢カテゴリールールが導入され普及した。カテゴリーは5歳毎のサブカテゴリーに分けられている。（女子は30歳以上から、男子は35歳以上からで現在のところ75歳以上のカテゴリーが最高齢） **Maxibasketball** は各年代共にかつて真剣勝負の場でプレーしてきた人達が再び真剣に戦うことのできる場所。

maxibasketballzadar2015.com

（大会概要他詳細は左記リンクをご参照ください）





38年間の高校教員生活を終えて（その3）

須田 武志

昭和51年(1976)6月、滋賀県立体育館で開催された第23回近畿総合選手権大会でのこと。かつては秋田の能代工業が全日本総合選手権大会の1回戦で、大学チームに勝ってマスコミの話題になったことがあったが、私が率いる膳所高校ももう少しのところで滋賀の能代工業になりそうであった。関西学生並びに西日本学生選手権で優勝した大学の雄である京都産業大学に果敢に挑戦したが、残念ながら53対57で敗れ次の日のスポニチ紙に取り上げられた。

以前に読んだ吉井四郎氏の「私が信じたバスケットボール」の中に“勝利の女神はいる”という内容のことが書かれていた。本当に勝利の女神はいるのだろうか？ 私は勝利の女神は待っていても来てくれず、より多く努力したチームを好むようだし微笑んでくれると思っている。

昭和63年(1988)の神戸インターハイ県予選で初日の緒戦はまさかの敗退となったが、この年のインターハイ予選は、コート外での奇跡と云う劇的な結果となり、最も思い出に残る一つであった。

この年のインターハイ予選は、試合数を増やすために春季高体連ベスト8に残ったチームを半分ずつに分けた4チームによる予選リーグ形式で実施され、予選リーグ総当たり上位2チームによる決勝リーグでインターハイ出場チームを決めるという方式だった。

我がチームは日程が2年生の修学旅行と重なり、1・3年生は中間試験とも日程が重なってしまったので、2年生は修学旅行を諦めインターハイ予選に臨んだ。予選リーグ初日の緒戦で八幡工業と対戦し56対61のスコアでまさかの敗退となってしまったのであるが、予選リーグで上位2チームに入ることはできて決勝リーグへ。

インターハイ予選最終日までの決勝リーグの成績は4チームとも1勝1敗、リーグ戦なので最後の試合に勝てば優勝となるチームもあれば、頑張っても勝っても優勝できないチームも出てくるのでことは複雑である。最終日、先に対戦を終えた膳所高校は2勝1敗となったが、その後の比叡山高校と八幡工業の最終戦は観客席で指を咥えて見ているだけであった。

最終戦は比叡山高校と予選リーグ緒戦で土を付けられた八幡工業が共に1勝1敗で戦い、八幡工業が勝てば優勝、比叡山高校が勝つと我が膳所高校に優勝が転がり込んでくるという図式となった。比叡山高校はこの試合に勝ってもインターハイに出場できる望みはない星勘定だったので、闘志は半減するだろうし試合を見てもあまり面白くなさそう。

試合が始まってしばらくすると案の定八幡工業が大きくリードしたので、「もう勝負あったかな」と思って帰り仕度を始めたら、試合を実況していたNHKのディレクターが「もうしばらくいて欲しい」という。試合は後半に入っても八幡工業の10点リードで進み、私はもう駄目だろうと思ったところ、ふとしたきっかけで比叡山高校が盛り返し延長戦に

もつれ込んだのである。

延長戦でも八幡工業が10点近くリードしたので、やはり勝っても優勝がない比叡山高校は負けるだろうと思い再び諦めかけたところ比叡山高校がまた追いついた。この時私は高校生の純粹さを感じたのである。自分たちが勝ってもインターハイに行けないことがわかっていても一生懸命に戦う姿勢は立派だった。試合は延長戦でも決着がつかず再延長戦へ突入、ここでも八幡工業がリードする局面が多かったが勝負はなかなか決まらなかった。

そのとき私は、ひょっとしたらこの世に“勝利の女神”と云うのがいて、女神たちが八幡工業を勝たせるのがよいか、それとも比叡山高校を勝たせて膳所高校に優勝させた方がよいのかを話し合っているのではないかと思った。女神たちの話し合いでなかなか結論が出ないので何回も延長戦をさせ、話し合いの時間を長引かせているのではないかと。膳所高校の部員は普段からコツコツと真面目に練習に取り組んでいるので、私は必ず“勝利の女神”は微笑んでくれると信じその微笑みに多くを期待した。

壮絶な試合は終わり結果的に比叡山高校が勝って膳所高校の優勝が決まり、“勝利の女神”は私たちに微笑みをくれ、私はNHKテレビから勝利インタビューを受けることになった。

インタビューに際してNHKのディレクターから、転がり込んだ優勝に「他力本願」という言葉は使わないで欲しいと釘を刺された。「それではどういう言葉を使えばよろしいか？」と尋ねたら「棚からボタ餅とでも言ってください」ということであつた。この試合は再延長になってもNHKの放映が続けられ、私の勝利インタビューもそのまま実況中継されたが、なんともおかしい気持ちであつた。やはり“勝利の女神”はいたのかと。このときのVTRは今でも大切に保管している。

私の母は明治生まれである。私が命がけでやっていたバスケットボールに全く興味も関心もないし、今まで試合などを見に来た例はない。父親はサッカーとラグビーの区別がつかないまま他界した。

そんな中、神戸で開催されたインターハイの際、滋賀県の大津から神戸三宮までJRにより58分位で行けるので一度見に来てはどうかということで、母と妻と2人の子供を初めてインターハイに招待することになった。明治生まれの母は、電車に乗って遠くまで出かけることが殆どなかったので、お祭り気分ですら神戸へやってきた。バスケットボールの試合を見るのが初めてだったので、神戸に行く前、近所の人に「これから神戸にバレーボールの試合を見に行ってくる」と云って家を出てきたようである。バスケットボールとバレーボールの区別がつかないでいる母。そういえば、30歳になっても結婚していなかった私に「タケシ、オマエいつまでもバレーボールなんかやっていないで、早く嫁さんをもらえよ」とよく言われたことを思い出す。

母が最初にして最後であるバスケットボールの試合の応援にきてくれた思い出の神戸インターハイでは、1回戦を延長戦で勝ち2回戦も延長戦で勝ち進んだが、さすがに3回戦では化けの皮が剥がれてベスト16で終わった。インターハイで同じチームが2試合続けて延長戦を戦って試合を制したことも珍しい。(つづく)

プラザ こぼればなし

- ◇ NBLの千葉ジェッツが、新リーグJPBLの1部入りの条件を満たすことに向け、観客席5000人規模の船橋市総合体育館でホームゲームの8割を開催するという「ホームタウン協定」を千葉県船橋市と結ぶと発表した。チーム名に「船橋」を入れるかどうかは未定というが、船橋市の好意に応えるべくこの際入れてはどうか。チームとしては千葉県全域を対象にして観客動員を図りたい意向だが、まずは船橋とその周辺を固め、その範囲で多くの支持者をブースターとして確保する対応が必要ではなかろうか。
- ◇ NBL、NBDLの全チームがJPBLに参加を申込みしたことは喜ばしいことであるが、問題はホームコートとその観客動員であろう。チームの運営団体が親企業から受ける支援形態がどのようなになるのか。通常、チームの主な収入は観客動員によるべきであり、そのための方策を講じることは不可避である。動員できる観客数が企業関係者のみでは、本誌の「会員だより」でも述べられているように少数である。従来の企業チーム名に示される大きな地域名では地元根付くチームになりにくい。従って、東京とか神奈川とかではなく、上記の千葉のようにホームアリーナがある場所、地域をチーム名に入れて支援者を確保する方策を取るべきではなかろうか。
- ◇ プロチームの主な収入源となる観客席の多いホームアリーナは、バレーボールなどの球技のほか、バドミントン、体操などの屋内スポーツを見せ、魅せる場としても必要である。多くの公共施設は、利用者のためにあり、小田原アリーナのようにフロアはバスケットボールのコート4面もとれる広さがあるが、観客席が観せる構造にはなっていないところもある。2012年に国家戦略として掲げられた「一般社団法人 アリーナススポーツ協議会」に協力して頂いて、早期に多くの地域で観客席5000人以上規模のアリーナ建設を実現して欲しい。関東での主なアリーナの現状観客席数は、下記の通り。

名 称	観客席数	名 称	観客席数
さいたまアリーナ	19,000	千葉ポートアリーナ	6,800
横浜アリーナ	17,000	ぐんまアリーナ	6,700
代々木第一体育館	13,000	船橋アリーナ	6,000
有明コロシアム	10,000	大田区総合体育館	4,000
東京体育館	10,000	代々木第二体育館	3,200

横浜中華街

皇朝点心舗



世界チャンピオンの

肉まん

楽天
イチバ
YAHOO!
JAPAN

第1位

第2位



1個 **100円** (税込)

※各種お土産取扱店



皇朝レストラン

ぐるなび
第1位

食べログ
第2位

時間無制限!

食べ放題

120種以上 **1,990円** (税込) ~

※点心飲茶



王朝 (担担麵)



中華街初、こだわり健康担々面! 特製ワカメ練り込み麵使用の担々麵をはじめ、
お料理 50 種以上、麵・ご飯 20 種以上、お酒 20 種以上をご用意!



NPO法人

日本バスケットボール振興会

〒101-0051

東京都千代田区神田神保町1-40

豊明ビル 301号

電話/FAX (03) 3219-9311

メール sinkokai@jbbs.jp

野菜・食材だけでなく 白髪染めも安心なものを



0
化学染料
ゼロ

ヘナは
自然派の
白髪染め
です！

グリーンノート ヘナ シリーズ

各100g

ヘナ・ヘナスーパー（早染めヘナ）

オレンジブラウン 1500円+税
ライトブラウン・ナチュラルブラウン 1600円+税
スーパーブラウン 2200円+税

オーガニータ（エコサート認証ヘナ）

ビターオレンジ・ノンカラー 1800円+税
サハラブラウン・アースブラウン・ディープブラウン 2300円+税
ノンカラー 1600円+税

植物成分100%
お湯で溶いて
塗るだけで簡単！



潤い
を閉じ込めて
艶やかに

コシ
が出て根元から
立ち上がる

ボリューム
アップ

しっとり
落ち着いて
まとまる

やっぱり天然が一番体にいい！
人工的な美しさはもういらない！

グリーンノートのヘアケアシリーズはシリコンはもちろんのこと、
石油系成分は一切使用していません。人間本来に備わる美しさを
最大限に引き出すことを考えて自然派の研究者が作りしました。

天然由来成分100%

石油系成分を一切使わない



両タイプ共通 全3色

脱ケミカル
ライフ！

グリーンノート ヘアケア シリーズ

敏感肌に・洗うたびに髪質向上
自然葉（しぜんは）シャンプー

本体 300ml 3000円+税
ミニ 30ml 400円+税

部分用白髪隠し
ヘアカラースティック

2200円+税

広範囲用白髪・薄毛隠し
ヘアカラーファンデーション

パクトセット 3600円+税
詰め替え用 3100円+税

製造販売元：
株式会社 グリーンノート
東京都中野区東中野2-20-13
☎ 03-3366-9701

詳しくは公式サイトをご覧ください ▶▶

<http://www.henna.co.jp>

リンス
不要